

2004年11月17日

=====
仔犬の通院理由トップ5・第1位は皮膚科疾患
=====

どうぶつ健保のアニコムが、アニコム健保登録約12万頭のどうぶつデータを元に、『仔犬の通院理由トップ5』を調査しました。

現在、アニコムどうぶつ健保に加入している0～1歳の仔犬の通院診療項目を調査したところ、トップ5は以下のようになりました。皮膚科疾患と消化器科疾患で、全体のおよそ2/3に達しています。

- 1位 皮膚科疾患（外耳炎、膿皮症、ニキビダニ症、アレルギーなど）・・・41%
- 2位 消化器科疾患（下痢、嘔吐、胃腸炎など）・・・25%
- 3位 整形外科疾患（骨折、股関節形成不全、膝蓋骨脱臼など）・・・9%
- 4位 呼吸器疾患（感冒、ケンネルコフ、肺炎など）・・・6.5%
- 5位 眼科疾患（角膜炎、結膜炎、チェリーアイなど）・・・4%

1～2歳と比較して、0～1歳に多くみられる疾患としては、先天性の循環器疾患、異物誤飲、感染症（パルボウイルス感染症、ジステンパーウイルス感染症など）が挙げられます。

0～1歳の中でも、とくに新しく迎えたばかりの頃は、体調を崩しやすかったり、家族がどうぶつとの生活に慣れていないことで、ケガや病気が増える、発見が遅れて症状が悪化しやすいといった傾向があります。先天性疾患のように避けられないケースもありますが、健康チェックをこまめに行う、適切なグルーミングを行う、予防措置をとる、抱っこ仕方をする、誤飲の原因を排除するなど、基本的な行動を見直すことで、回避できるトラブルもたくさんあります。

万が一のトラブルに備えて、健保の準備をしておくとともに、大切な家族の一員が、できる限り健康に暮らせるよう配慮したいものです。